

令和4年度 学校評価報告書 【邇摩高等学校】

A：達成できている B：概ね達成 C：改善努力が必要

評価計画					学校評価の結果・評価・課題・改善案							
重点目標	運営方針	分掌等	具体的な取組事項	評価指標 (到達したい状況・状態)	目標値	結果	昨年度 (参考)	校内 評価	反省及び次年度への課題等	学校 関係者 評価	改善案	
学校の魅力化	総合学科高校としての魅力化支援	総務	・オープンスクールの充実を図る。参加申込書を邇摩高校が作成し中学校に配布することで、中学生が参加しやすい申し込み方法に変更する。	・2回のオープンスクールの延べ参加人数 140人以上	100%	第1回 104名 第2回 45名 合計 149名	第1回 123名 第2回 60名 合計 183名	A	・各系列の先生方には大変お世話になりました。第2回目については「マンネリ感」があり、内容を検討したい。	A	・邇摩高校での学びや学校生活が伝わるような内容になるよう、系列の意見も取り入れながら、実施する。 ・大田高校と日程の調整をし、近隣中学校の生徒が比較検討できるような機会とする。	
	PTA活動の充実		・仁心祭「文化祭の部」でPTA事業を実施し、生徒・教職員・保護者の学校満足度を上げる。	・生徒・保護者・教職員アンケートにおいて「文化祭のPTA事業は楽しめるものでしたか？」に対して「A」「B」と回答した割合	80%	89.3%		A	・PTA役員の理解もあり、感染症拡大防止策を講じながら実施した。仁心祭は生徒にとっても、思い出に残る行事であり、次年度もPTAから協力しながらサポートをして盛り上げていきたい。	A	・PTA役員のみならず、多くの保護者の方にもPTA活動に参加いただけるよう呼びかけをしていきたい。 ・企業見学バスツアーと四者会議を見直し、保護者の方に地元企業の魅力を知っていただく機会を作る。	
	総合学科教育推進の柱となる体制作りと、各部署と連携した系統的な教育体制作り	総合学科研究	・産業社会と人間、総合的な探究の学習、課題研究が効率的かつ系統的に実施できる体制を整備する。	・生徒・保護者・教職員アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	80%	97.5%	88.2%	A	・1年生「産業社会と人間」、2年生「探究活動」、3年生「課題研究、邇摩高フェア」は地域と関連する内容が多いが、今年度はコロナ関連での各種制限が緩和され実際に地域との交流が実現できたことから生徒評価はかなり高くなった。 ・2年生「インターンシップ」は他校を参考に思い切った改善を目指したい。 ・グランドデザインのカリキュラム・ポリシーが整理されたことでキャリア構築の流れが教員にとっても分かり易くなった。これにより先生方が総合学科の教員としての意識を高く持てるようになった。今後人事異動で本校に着任される先生方を含め全教職員対象の年度初め研修を継続する。	A	・2年生「インターンシップ」のあり方について、より生徒主体型（申し込み～実施～報告書作成）の実施を目指したい。学校は生徒への事前指導、事業所との最終連絡調整や確認作業を確実に実施する。実施報告書は全員分を貼り出して公開する。実施時期は夏季休業中の前半で生徒一人につき3日間を原則とする。	
	地域と連携した総合学科教育の魅力化推進		・学校行事「邇摩高フェア」を全学年・全教職員体制で実施し、総合学科高校における地域課題解決型学習の成果を包括的に具現化させる。	・生徒・保護者・教職員アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	80%	97.9%	91.9%	A	・3年ぶりに制限なしで邇摩高フェアが実施できたため充実感が押し高い評価となった。来場者数も950名と多くこの地域における邇摩高の存在意義も確認できたと思われる。R5年度も同じような開催形式を目指したい。 ・新教育課程が完成するR6年度の邇摩高フェアについて準備作業をどうするのか1年間かけて検討し方向性を示さなければならない。	A	・R6年度は現状の3年生「銀の哲学B」がカリキュラムから無くなり、さらに3年生「総合的な探究の時間」の2単位分は「課題研究」の授業展開となるため、1年を通して「邇摩高フェア」の準備をする授業が設定できなくなる。1、2、3学年全体での実施とするのか3年生を中心とした実施とするのか、また、系列の授業内で準備を工夫するのか放課後作業とするのか等を含めR5年度1年間を通して検討して方向性を示す。	
	島根県ならびに本校の総合学科教育の研究と実践		・「石見銀山保全活動プロジェクト」により、生徒が身近な地域課題解決学習に主体的・協働的に取り組む姿勢を育成する。	・生徒・教職員アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	80%	96.7%	-	A	・世界遺産に一番近い高校として「石見銀山とその文化的景観」に遺跡保全活動として関わったことは地域課題解決への導入として有効に機能したと考える。	A	・今後も継続して実施し、地域の魅力を知ることで、「地域愛」の醸成に繋げていきたい。	
			・教職員向け総合学科研修を通して県内・全国の視点で本校の総合学科教育の改善と充実を図る。	・教職員アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	80%	81.8%	80.8%	A	・R3年度と同じ内容を踏襲してR4年度は実施してきた。R4年度は特に切り捨てた内容は切り捨てたがスリム化を目指したがまだまだ各論的資料が多くまとめられていないのが現状である。	A	・他校からの視察に対して、有益な情報提供ができる「本校総合学科実践資料」の整備を目指す。	
	教育施設・設備の充実と円滑な学校運営		事務	・効果的な予算執行による施設・設備の充実 ・支援金等制度の周知徹底と申請手続きの支援	・保護者・教職員アンケートにおいて「A」、「B」と回答した割合	95%	91.4%	93.4%	B	・目標は下回ったが、保護者への必要な支援は概ね達成できたと考えている。また、予算確保に努めて、施設・設備の充実を図ることができたと考えている。次年度も同様な取組をしたいと思う。	A	・学校の窓口として、今後も電話や来校者への対応は、丁寧に行いたい。 ・様々な事業があるが、教職員と連携しながら、効果的・適正な予算執行を行いたい。
	生徒の将来を見通したキャリア教育の充実			総合学科研究	・選択ガイドランスや見学・体験を通じ、生徒が主体的に進路目標に応じた選択ができる体制を強化する。	・生徒・保護者・教職員アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	80%	96.7%	88.9%	A	・高校入学後に自分探しが出来ることは総合学科高校の最大の特徴であり強みである。生徒・教職員の評価は非常に高く目的を達成できたと判断する。保護者の評価も高いが生徒との開きが少しある。自由記述がないのでその理由はわからない。	A
	図書館活用の充実と読書活動の推進	図書情報研修	・図書資料の活用の充実を図り、図書委員会の活動等を利用して活字に親しむ生徒を育成し、図書館利用を促す。 ・教科指導や総合的な探究の学習の時間などにも活用できる図書や環境整備に努める。	・生徒・教職員のアンケートにおいて「図書館を利用することができた」に対して「A」「B」と回答した割合	80%	74.8%	61.5%	B	・先生方に選んでいた本や新聞が図書館にあるので、クロムブックでは取り出せない情報を入手できる環境があることをアピールする。	B	・図書館に生徒や教職員を招き入れることもさることながら、図書館から教室や職員室へ外出して読書に対する関心を高める方策を研究し、具体案を提示していきたい。	
	キャリア教育の充実と推進		進路指導	・進路weekや総合的な探究の時間を計画的に活用する。 ・進路希望調査、生徒面談、進路検討会等を効果的に利用する。	・生徒・保護者・教職員アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	100%	141時間	152時間	B	・利用の少ない教科へ利用法の提案を行う。	A	・特定の生徒の貸し出しが目立つが、図書館に出入りする他の生徒たちにも本を読むように仕向けた。
進路情報の積極的な提供と発信			・進路行事を計画し、進路意識を高める。 ・進路便りやホームページでの情報発信を行う。	・生徒・保護者・教職員アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	80%	94.6%	88.5%	A	・新規の進路行事等を予定したが、今年度はほぼ計画通りに行うことができた。次年度も継続したい。 ・進路学習の提出物等が徹底されなかったため、更なる指導が必要である。	A	・感染状況等もあるが、可能な限り外部とのつながりのある進路行事を開催する。	
相談活動の充実	保健	・ケース会、カウンセリング委員会等を開催し情報の共有を図る。また外部機関との連携を図る。	・教職員アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	80%	81.8%	88.0%	A	・必要に応じて実施し情報共有ができたことで、様々な視点から対応策を考えることができた。支援を必要とする生徒に対して、学年会等への更なる声かけが必要であった。	A	・情報共有を図り、学年会等で支援の必要な生徒に対して積極的に声をかける。		
健康管理の推進、学習環境の美化と施設保全		・保健委員による、健康増進、感染症対策、学校環境美化活動（掲示物や集会、放送等による啓発活動、掃除用具の整理・補充）の実施	・生徒・教職員アンケートにおいて保健委員会の活動により「健康増進、感染症対策、校内の環境美化についての意識が高まっている」に対して「A」「B」と回答した割合	80%	90.9%	82.5%	A	・委員会を開催し、目標達成のための意見を出し合うことができた。全校生徒に対して、更なる呼びかけが必要であった。	A	・多くの意見を出し合い委員会の活動回数を増やす。新たな活動の場も増やしていく。		
特別支援教育の推進と生徒理解	特別支援教育	・教職員研修の企画・実施や便りの発行を行う。 ・特別支援教育推進委員会や学年会で校内の情報を共有するとともに、外部機関とも連携を図る。	・教職員アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	80%	90.9%	93.1%	A	・教職員研修会を4月と9月の2回実施、便りは紙面で23回発行したが、どの程度活用・実践されているか分からない。	A	・生徒の実態に合った、すぐ使えるような実践例を職員会議後、5分程度のミニ研修として紹介し、教職員の活用を促す。		
人権教育の充実と自他を尊重し、多様性を認め合う心の教育の実践	人権教育	・学年別LHR活動の企画・実施 ・全校集会や外部講師による講演会の企画・実施 ・人権教育便りの発行 ・教職員研修の充実	・生徒・保護者・教職員アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	80%	97.1%	86.0%	A	・おおむね例年並みの実践を行うなかで、新たに生徒対象講話や全校講演会を実施することができた。 ・学期に1回のLHRの内容を、生徒の実態に合わせて改編する必要があった。 ・推進委員会は開催できたが、教職員の研修ニーズをアンケート等で把握する必要があった。	A	・生徒の実態に合ったホームルーム活動や講話・講演会を企画する。そのために必要な学年会等関係部署との連携を強化する。 ・生徒理解や生徒支援に結びつくような教職員研修を、教職員のニーズを把握した上で提案・企画する。		
		・「産業社会と人間」を中心に進路意識を育み、自己理解に基づき将来を見通して適切な系列選択ができるよう支援する。	・生徒・保護者・教職員アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	80%	96.0%	93.7%	A	・「産業社会と人間」の授業や担任との面談を通して、将来を見据えた適切な（2年次からの）系列選択につなげることができた。	A	・1年次の「産業社会と人間」で学んだことを生かして、2年次の「進路設計」や「石見銀山課題解決型学習」の学習につなげていく。		
			・生徒・保護者・教職員アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	80%	89.0%	91.2%	A					
			・生徒・保護者・教職員アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	80%	100%	91.7%	A					

学習指導の充実	生徒の成長を促す授業実践の環境整備	教務	・授業実践力の向上	・教職員アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合。(教員の授業改善への取り組みやその意識に対する評価の割合)	80%	93.9%	92.9%	A	・各教科、各系列で生徒の実態に応じてきめ細かい指導が行われている。また、ICT支援員によるサポートを受けながら1人1台タブレットを導入した授業展開が定着しつつある。 ・年度当初にUDに関わる取組を説明したが「本時の目標・流れ」の提示の徹底が課題である。	A	・年度当初や学期始めの職員会議等で教室環境の整備とUDに関わる取組の徹底を促す。 ・新教育課程完成年度(R6)に向けて授業計画(シラバス)や評価計画を作成し、指導と評価の一体化の実践を促す。 ・図書情報研修部と連携し、ICT支援員による教職員向けの研修を開催し、Chromebookを効果的に導入した授業を普及させていく。	
			・全体環境の整備(効果的なUD環境の定着を推進する)	・生徒・教職員アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合。(全ての授業で統一ルールに基づいた授業が行われ、わかりやすい授業が展開されていると認識する割合)	80%	94.6%	89.4%	A				
生徒指導の充実	自己実現に向けて主体的に取り組む制度の醸成	生徒指導	・進路実現のために、TPOをわきまえ、挨拶や言葉遣いの指導を徹底する。	・生徒・保護者・教職員アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	80%	97.9%	—	A	・来校者や系列などの講師の方への対応や地域に出かけて活動する場面で、自主的にTPOにあわせて、挨拶をしている。 ・今後も学校全体、地域での活動で積極的に挨拶や礼法指導をしていくべきである。	A	・系列などでの活動をとおして積極的に挨拶や礼法指導をして、来校者や地域の方に認められるように指導する。	
			・平素の学校生活の中で、身なり指導を徹底する。	・生徒・保護者・教職員アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	80%	94.6%	—	A				
					80%	88.9%	—	A				
		生活環境の整備	舎務	・共用場所の環境美化に取り組む。 ・居住スペースの改修工事への協力する。	教職員アンケートで「A」「B」が80%以上	80%	87.9%	95.8%	A	・3月に改修工事が終了予定。共用場所・居住スペースの環境美化を保つ。	A	・リフレッシュ工事が完了し、快適な生活空間が維持できるよう指導をしていきたい。 ・外部舎監の導入が始まったので、寄宿舎に関わる情報交換(生徒の生活面、環境等)を密にしていきたい。
	地域理解と将来を見通した進路意識の向上	1年	1年	・進路に関する意識をもたせ、適切な進路選択を行えるように支援する。	・生徒・保護者・教職員アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	80%	97.3%	93.7%	A	・様々な進路行事や担任との個人面談を通して、地元企業や職業についての理解を深め、生徒が自分に合った進路目標を設定し、その実現に向けた行動につなげることができた。	A	・引き続き、様々な進路行事や担任との個人面談を通して進路先への理解を深め、生徒が自分に合った進路目標を設定してその実現に向けた行動につなげられるよう働きかけていく。
						80%	83.4%	91.2%	A			
						80%	100%	91.7%	A			
		2年	2年	・進路設計での課題探究学習とインターンシップ、進路講話の実施。各定期試験の目標設定や振り返りと個人面談等での支援。	・アンケートで「地域理解と具体的な進路目標の設定やその実現に向けての具体的な行動」に関わる項目に対して「A」「B」と答えた回答の割合。	80%	98.7%	87.1%	A	・「進路設計」の学習に進路に関わる学習を入れ、進路目標の設定やその実現に向けて意識させることができた。また、「石見銀山課題解決型学習」では地域理解を深めることができたが、校内で学習内容や成果を周知する機会を設けるとよかった。 ・生徒、保護者と担任との面談は、進路や学校生活(特に生徒の悩みやつまずき)についての情報を得たり提供したりするのに効果的であった。	A	・「進路設計」の学習内容や成果を周知する機会を設ける。 ・引き続き、きめ細やかな面談と情報提供によって、進路目標の設定とその実現に向けての学習や行動ができるように支援する。
					80%	95.8%	82.4%	A				
					80%	95.2%	76.2%	A				
	個々の進路実現に向けた指導の徹底	3年	3年	・個別面談を通して生徒理解を深め、家庭等とも連携を密にしながら、個々に応じた指導、支援を充実させる。 ・学年集会や進路集会で適切な情報発信を行う。	・生徒・保護者・教職員アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	80%	91.2%	82.6%	A	・担任の先生方を中心に、先生方からのご指導のおかげで、進路実現に向けた前向きな努力を継続することができた。 ・学年通信や保護者進路説明会などを通じて情報提供を心掛けたが、各ご家庭が必要とされる情報が十分に伝わっていないこともあった。個別の対応が必要であった。	A	・生徒、保護者に対する情報提供をより確実なものにするために、進路集会や保護者進路説明会のあり方を工夫する。 ・行事や授業で他者と関わる場面を意識的に設定し、社会に出る準備につながるよう指導する。
						80%	87.8%	70.0%	A			
					80%	100%	90.5%	A				

グランド評価指標	実績・資格	A指標	新規高卒者の就職率	100%	100%	100%	A	・今後も継続して指導をしていきたい。	A	・就職希望者に対しては、企業等と連携を密に執り、生徒一人一人の希望に合った進路指導を継続していく。 ・探究学習等を通して、地域愛を醸成し、それが地元就職に繋がる仕組みを構築していく。 ・系列の学びを活かした進学・就職者の割合の目標値をあげ、同時に生徒の学習意欲を高める工夫をしていく。	
			就職者のうちの県内就職者の割合	80%	87.9%	92.3%	A	・昨年度より、数値は低くなったが、生徒・保護者の意見を優先しながら、進路実現を図っている。			
			系列の学びを活かした進学・就職者の割合	30%	50.5%	47.2%	A	・達成できているが、より一層、系列の学びを将来に活かす工夫が必要である。			
姿勢・意欲	B指標	B指標	主体性	生徒アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	75%	91.7%	84.4%	A	・目標達成は、できている。目標値を上げ、引き続き、生徒の主体性、協働性、探究性、社会性を育成していきたい。	A	・目標値を上げ、生徒の姿勢・意欲を高める教育活動を推進していきたい。 ・地域の行事やボランティア参加について、地域と連携を図り、高校生参加への呼びかけを積極的に行っていく。生徒が地域に出ることで、多様な人と関わり、経験をすることで、地域の魅力や課題の再発見につながる。地域に貢献できる人づくりを推進していく。
			協働性		75%	95.9%	91.6%	A			
			探究性		75%	85.2%	74.7%	A			
			社会性		75%	84.7%	72.2%	A			
成果力指標	高校の魅力化につながる教育活動やそれに関わる大人(地域)の増		魅力化アンケートの学習環境の4領域の結果が4領域とも3以上	100%	主体性 3 協働性 3 探究性 3 社会性 3	主体性 4 協働性 4 探究性 4 社会性 4	A	・目標達成は、できている。昨年度と比較すると数値が下がっている。周りの大人の意識を変えていく必要がある。	A	・生徒のお手本となる地域の大人が生徒たちにとって魅力的な存在になる必要がある。授業や行事等で学校教育活動との関わりをより一層深めていく。	
	地域を支える人材の増加		県内への進学・就職率	80%	就職87.9% 進学57.1% 合計67.0%	就職92.3% 進学52.2% 合計64.2%	B	・学年により、生徒・保護者の県内・県外志向の傾向が異なる。授業や学校行事等を通して、地域貢献できる人材の育成に力を注ぎたい。	B	・探究学習等を通して、地域の魅力や課題を知ることで、地域愛を醸成し、地元就職・進学に繋げる。 ・県内は、高等教育機関に限られており、生徒が学びたいことが学べない分野もある。一度県外に出てから、地元就職を考える生徒を育成する。	
	本校志願者数の増加		本校志願者数が昨年度を上回る	100%	97名	87名	A	・昨年度より、志願者が増えた。定員120名の志願者を目標に、中学生やその保護者PRしていくことが今後の課題である。	A	・総合学科の学びの魅力について、中学校(生徒・保護者・教員)に周知する。そのために、近隣の小中学校と連携事業を実施したり、アンバサダー事業(生徒による出前講座)を活用したりする。	